

MACROCOSM



CONTENTS

- 2 一般財団法人 青少年国際交流推進センター理事長あいさつ／事業計画
- 4 日本青年国際交流機構 (IYEO) 会長あいさつ／活動計画
- 6 日本・ASEANユースリーダーズサミット基調講演録(明石康氏)
- 10 タイ王国・スタディツアー 2013
- 12 英国大学生 陸前高田ボランティア受入れプロジェクト

マクロコズム

タイ王国・スタディツアー2013

(一財)青少年国際交流推進センターでは、平成25年3月18日～26日、自主事業として「タイ王国・スタディツアー2013」を実施しました。

大学生を中心とした10名の青少年と1名の同行職員の合計11名は、青少年健全育成プロジェクト「For Hopeful Children Project (FHCP) 2013」にボランティアスタッフとして参加しました。タイで孤児であったり、障がいを持っていたり等の理由で社会的に恵まれない状況にある「希望あふれる子供たち (Hopeful Children)」と呼ばれる子供たちのために行われているプロジェクトです。

FHCP2013に先立ち、タイの「希望あふれる子供たち」の生活する児童養護施設を訪問し、それぞれの施設で子供たちと共に生活・活動することを通じて、子供たちとのコミュニケーションを深めました。活動を通じ、国際協力活動を実践するとともに、国際協調の精神を養いました。



For Hopeful Children Project (FHCP) 2013のポスター

月日	活動内容
3月18日(月)	バンコク集合
3月19日(火)	カーンチャナブリー県へ移動
	子どもの村学園ムーバーンデックでの活動 子供たちと交流
3月20日(水)	タンヌラク・子どもの村学園ムーバーンデックでの活動
	タンヌラクにて、子供たちと交流・施設見学 子どもの村学園ムーバーンデックにて、職業訓練ワークショップ参加、子供たちとの交流会・文化紹介
3月21日(木)	サムットプラカーン県(バンコク郊外)へ移動
	FORDEC(フォルデック)での活動 子供たちと交流、子供たちの自宅(低所得層家庭)訪問
3月22日(金)	チョンブリー県へ移動 FHCP2013タイボランティアスタッフと顔合わせ、事前ミーティング、事前準備
3月23日(土)	FHCP2013 開会式、海水浴、参加各団体のパフォーマンス披露
	FHCP2013 軍用船でタイ湾周遊、アスレチック体験、サンゴ植え付け、ブース別ワークショップ活動(日本文化紹介)、海水浴、参加各団体のパフォーマンス披露
3月25日(月)	FHCP2013 閉会式
	バンコクへ移動 FHCP2013タイボランティアスタッフとの夕食会
3月26日(火)	バンコクにて解散



ムーバーンデックで職業訓練の一つであるバティック染めを体験する



児童デイケアサービスセンターのFORDEC(フォルデック)で子供たちと交流する

■ For Hopeful Children Project (FHCP) 2013

1991年に始まったFHCPは、今年で23年目を迎えました。タイ王国海軍の協力を得て実施される本プロジェクトは、サッタヒーブの海軍基地に、タイ全国の16施設から約630名の子供たちが集まり、スタッフも合計すると1000人規模のプロジェクトが実施されました。期間中はタイ海軍によるパラシュートのデモンストレーションや軍用船体験等の他、海水浴や各施設によるアクティビティ、地元企業の協賛による屋台が出されて子供たちのために協働しました。日本のボランティアスタッフもワークショップを開き、折り紙等を通じて日本文化を紹介するとともにソーラン節を子供たちと一緒に披露しました。



FHCPに参加し、子供たちと一緒に海軍のアスレチックに挑戦する



FHCPで日本文化紹介ブースを設け、折り紙や塗り絵を通じて子供たちと交流する



海水浴ではしゃぐ子供たち(FHCP)

■訪問した施設

1. 子どもの村学園ムーバーンデック

カンチャナブリー県にある児童養護施設で、1979年に設立されたNPOです。両親のいない家庭又は、貧困・家庭崩壊などで育児のできない家庭出身の子供たち約150名を預かっています。3歳以上の子供たちが、共同生活をしながら生きる術を学ぶ場であり、タイ教育省から認可を受けた学校でもあります。参加者は、川遊びや日本文化ワークショップでの交流、職業訓練ワークショップの一部として行われているパティック染めの体験等から、子供たちの暮らしについて学びました。



児童養護施設子どもの村学園ムーバーンデックに滞在し、子供たちと川遊びをする

2. タンマヌラック

カンチャナブリー県にある施設で、仏教の精神に基づき、尼僧により2000年に設立されました。両親のいない家庭や育児のできない家庭出身の子供たちを預かっています。タイ・ミャンマー国境地域で生まれた山岳少数民族(カレン族、モン族等)の子供たちが多くいます。今回は、半日の訪問で、子供たちとの交流及び施設見学を行いました。



尼僧により設立された児童養護施設タンマヌラックにて、「だるまさんが転んだ」を一緒に体験する

3. FORDEC(フォルデック)

フォルデックの創始者アムボン・ワッタナウォンは、孤児として、家もなく、食べるものも十分にない生活をしました。自分と同じ思いをさせたくないという一心で、困難を抱えた全ての人々に対する愛と心配りに自分自身の人生を捧げる決意をし、1998年にフォルデックを設立しました。今回は、サムットプラカーン県にあるフォルデック・デイケアセンターを訪れ、センターに通う低所得者層家庭の子供たちと交流し、スラムの中に住む子供たちの自宅を訪問しました。



日本文化紹介としてFORDEC(フォルデック)の子供たちと一緒に鶴を折る

参加者の感想

はじめに

石賀 貴恵

「絶対に同情はしない」プログラム参加前に唯一、私が決めたことだった。

参加前の私は、ボランティアは自己満足・偽善であるという偏った考えを持っており、参加理由も、何となく過ごす毎日に刺激を与えたかったから。けれども、参加する上で私が目指したのは、できるだけ彼らの目線に近づき、彼らが何を見て、何を感じるのかを知ることだった。そのため、彼らのバックグラウンドや現状を知り、「かわいそう」といった感情を抱くことは彼らに対して失礼であり、その時点で、彼らの目に映るものが私には映らなくなってしまうと思ったからだ。でも、私にできることがあるのか、応募したことを後悔するほどの不安に襲われながらスタディツアーはスタートした。

ムーバーンデック

タイで最初に出会った子供たちと私たちの友情は川で始まった。名前を聞くよりも、「はじめまして」と言うよりも先に一緒に川へ飛び込んだ。私の手を引っ張ったり、おんぶをせがんだり。物怖じせず近づいてくる子供たちに私が助けられた。たくさんの子供たちと仲良くなることができて嬉しかった。でも、そのうちの一人の女の子が独占欲からか、私が他の子と話したり、手をつないだりすると、ケンカになってしまうことがあった。私はどの子も同じように大切にしたいが、ただケンカを止めることしかできなかった。幼い彼女は大人に甘えたい時期でありながら、いつもはそのようにできないので、私に愛情を求めたのだと思う。私も精一杯愛情を注いだつもりだが、彼女の心を満たすことができたのだろうか。

彼らのバックグラウンドには冷たい現実があるはずなのに、笑顔は温かく、それらを感じさせないのは、創始者の思想とスタッフの尽力、個人・企業からの支援によるものであることに感動を覚えた。

FORDEC

これまで訪れた施設と違うのは、子供たちを一時的に預かっている点だった。また、おやつの前に手を洗うという習慣づけがされていることに驚いた。手を洗って向かってくる子供たち一人一人の小さな手を拭きながら、タオル越しに温もりと柔らかさを感じて心がじんわりした。FORDECのスタッフは笑顔がすてきで、その笑顔には強さを感じた。それは、FORDECが子供を受け入れるだけでなく、能動的に困難な状況にある家庭の生活環境・職業のサポートを行っているからだった。FORDECの活動を知れば至極納得のいくものであった。私の脳裏に焼き付いているのは、迎えに来た親と一緒に帰る穏やかな子供た

ちの顔で、ムーバーンデックでもタマヌラックでも見ることでできない表情だった。貧しくても誰かが迎えに来てくれる、帰る家があるというのは子供にとってこんなにも大きなことなのかと心臓をしめつけられるような思いがした。

FHCP

私は「ポケットハウス」という男の子だけの施設を担当することになったが、タイ語を話せない私を子供たちが相手にしてくれないのではないかと萎縮してしまった。でも、無我夢中で、目が合った子供みんなに笑顔で「おいでー!」と手を広げたら、照れながらも笑顔で抱きついてきてくれた。それからは誰に対しても壁を感じることはなかった。真正面から向き合い、目と目を合わせて伝えようとすれば伝わるのだと思った。会場にいるFHCPで仲良くなった子供たち、ボランティアスタッフ、ムーバーンデックの子供たち、訪問した施設のスタッフが私を見つけ、「きえー!」と呼んで、笑顔で駆け寄ってきてくれる。彼らと出会い、共に過ごしたのはわずか数日である。でも、彼ら全員が私の大事な存在となっていて、自分の名前を呼んでもらえることがこんなにも嬉しいのだった。会場を見渡すと、全員が笑顔で、幸せな空間だった。そんなすてきな空間を生み出したMr. Visitを始めとするボランティアスタッフや海軍の方などすべての方に感謝したいと思った。「どうか会場にいる全員の未来が明るいものでありますように」と。20年生きてきて誰かの幸せをこんなに願ったのは初めてだった。ボランティアなんてと思っていた私がこんな感情を抱くとは思ってもみず、訳も分からず号泣している自分に驚いた。

終わりに

未熟な私が子供たちにしてあげられたのはこれっぽっちのことかもしれないが、全てのことに全力投球したと胸を張って言える。鬼ごっこも水遊びもおんぶもハグも100%だった。子供たちと私の間で生まれたものは確かにあったし、今でも、これからも私の中で生き続けると思う。今回のツアーを通じてボランティアって何だろう?と考えさせられた。まだ答えは出ていないし、永遠に出ないかもしれない。でも、私が出発前に持っていた概念が正しくなかったことは確かである。これから、五感をフル活用してタイで得たものをそのままにせず、伝えて、発展させる義務があると思う。まず自分にできる小さくて大きな一歩を踏み出したい。



～IYEO東日本大震災復興支援活動に係る助成金を活用して～ 英国大学生 陸前高田ボランティア受入れプロジェクト

平成24年9月9日(日)～19日(水)、岩手県陸前高田市を中心に、英国大学生陸前高田ボランティア受入れプロジェクトが開催され、参加者のボランティア活動を支えるボランティアスタッフ16名(うちIYEO会員6名)が運営に当たりました。

このプロジェクトは、「世界青年の船」事業既参加青年である小宮利奈さんが代表を務めるAction for Japan UKという団体が実施しました。「被災地に来て、見て、それを外で伝えてくれたら、(ボランティアをしなくても)復興支援になる」という陸前高田市長の考えに賛同し、できるだけ多くの人を陸前高田に呼ぶことを目的としたこのプロジェクトは、今回「世界青年の船」事業既参加青年である仲本沙奈美さんが現地受入れプロジェクトの代表となり、4名のIYEO会員が新たに加わって実施されました。IYEO東日本大震災復興支援活動に係る助成金(*)を受けて行われました。

参加者10名(英国大学生8名と通訳ボランティアの日本人大学院生2名)は、被災した漁港の養殖設備の清掃や、仮設住宅の住民同士の交流促進のための「縁側カフェ」の開催(岩手県IYEOと共催)、小学校での国際交流授業や中学・高校生向けの夜間教室での英語の授業など、様々なボランティア活動に取り組みました。また、地元の太鼓グループで太鼓を習い、地元の若者から郷土料理を学ぶなどの文化交流を通して、陸前高田市の人々の暮らしについて理解を深めました。今回のボランティア活動を通して学んだ被災地の「いま」を、1月にロンドンの国際交流基金などで報告し、広く世界に伝えていきます。

英国の参加者がまとめたドキュメンタリーはこちらでご覧になれます。



<http://vimeo.com/59277696>

日程

9月9日(日)	東京着
10日(月)	観光日、夜行バスにて陸前高田へ出発
11日(火)	【午前】被災地視察 【午後】地元企業訪問(八木澤商店)、市長表敬訪問・副市長講話 【夜】被災地企業インターン学生との交流会
12日(水)	【午前】気仙・長部小学校にて国際交流授業と給食体験 【夕方】竹駒小学校でボランティア活動(窓拭き) 【夜】副市長他、地元の方との夕食会
13日(木)	【午前・午後】広田漁港にてボランティア活動 【夜】学びの部屋(仮設住宅に住む中高生のための夜間学校)で英語授業、けせん七夕太鼓訪問
14日(金)	【午前・午後】広田漁港にてボランティア活動 【夜】氷上太鼓体験
15日(土)	【午前・午後】中田雇用促進住宅にて英国風カフェ実施 【夜】矢作中学仮設住宅内見学
16日(日)	仙台へ移動、夜行バスで東京へ移動
17日(月) 18日(火)	東京にて緊急・復興支援に携わった方々へのインタビュー
19日(水)	英国に向けて出発



縁側カフェでジョン・レノンの「イマジン」を歌う



被災地を巡り被災者から直接体験談を聞く

*IYEO東日本大震災復興支援活動に係る助成金について

「IYEO東日本大震災復興支援活動に係る助成金」は、平成23年11月25日に制定された内規で、内閣府(総務庁・総理府)青年国際交流事業並びに地方公共団体が実施した国際交流事業既参加者の経験や知識、情報、アイデアをいかし、日本青年国際交流機構(以下「IYEO」という。)が東日本大震災の被災地の復興に貢献するため、IYEO 東日本大震災支援金から一定の条件のもとで支給する助成金です。(平成23年度のみの実施)

青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第29回全国大会 第20回青少年国際交流全国フォーラム 三重大会(案)

日時：8月17日(土)～8月18日(日)
会場：神宮会館
〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
<http://www.jingukaikan.jp/>



テーマ：伊勢の杜で学ぶ 常若の精神

グローバル化や社会の多様化等、変化の激しい現代においては、その変化に主体的に対応する必要があります。本大会を開催する伊勢の地に古代からまつられている神宮では、20年に一度、遷宮が行われ、これまで築かれた伝統を継承しつつ、常に若々しくあり続けるという常若(とこわか)の精神が大切にされています。この精神を持って、新しいことに挑戦していく姿勢は、次世代を担う青年リーダーの育成のための重要な考え方に通じます。

日本青年国際交流機構が目指す人材育成、国際協力活動は、参加した国際交流事業での経験を社会に還元することを基本としています。新しい人材を迎え入れるとともに、その時代状況やニーズに応じた活動内容の工夫が常に求められており、まさに常若の精神へと繋がります。

本大会を、伊勢の神宮で開催するに当たり、常若の精神を基本とした基調講演を神宮司庁にお願いし、分科会では伊勢の地にあるさまざまな常若の精神を体感して新たな気づきを得られる場としていきたいと考えています。そして、参加者による情報交換やネットワーク構築がなされ、それぞれの活動の活性化につながることをねらいとします。

日程

第1日目・8月17日(土)	
12:30	受付
13:30	開会式
14:00～15:15	基調講演
15:30～18:00	分科会
18:45～20:15	懇談会
第2日目・8月18日(日)	
9:00	表彰式
9:30	事後活動紹介
11:00～11:15	閉会式

伊勢の常若の精神を体感できる八つの分科会(案)を予定しています。

外宮参拝とせんぐう館見学 ～日本の歴史と食を考える～	日本人の「心のふるさと」と呼ばれている伊勢の神宮。昔も今も多くの人の心を捉えて離さない神宮の魅力とは何か?20年に一度の式年遷宮や衣食住を司る外宮の見学を通じて、その謎に迫ります。
英語語り部入門 ～地域と世界を繋ぐ～	世界遺産の熊野古道は、現在外国語の語り部(ガイド)の需要が増している。英語通訳案内士として、地域ボランティアガイドの育成をしながら地域活性に貢献している方より、英語によるミニガイドのワークショップ等を体験しながら、ガイドの心得やその醍醐味を学ぶ。
「高校生レストラン」の人材育成 ～地域から世界に目を向ける～	即戦力となる料理人を育てることを目指している三重県立相可高校食物調理科では、海外のコンクールに生徒を派遣したり、他国の高校生とも交流している。調理クラブでレストラン「まごの店」を運営するほか、地元企業との連携も行うなど、地域に根ざして世界にも目を向けた人材育成について考える。
外国にルーツのある 子どもの学習支援 ～三重県内の取組～	三重県は全国的にみても外国人比率が高く、家族と一緒に来日する子供が増加しており、言葉や文化の違いを超えて、日本の教育に馴染めるよう、県内各地で支援が行われている。そうした支援活動の事例を紹介し、ワークショップ形式で参加者と共により良い支援を考える。
まちおこしワークショップ ～伊勢河崎を歩く～	かつて「伊勢の台所」とも呼ばれ、参拝客をもてなす街として発展した勢田川沿いの河崎を歩きながら、陸運が発達してその役割を終えた蔵の中で、この町をどう観光スポットとしてPRしていくのか?「まちおこしワークショップ」を通して考える。
養殖真珠の世界 ～真珠アクセサリー製作体験～	伊勢志摩で産み出され世界へ羽ばたいた養殖真珠。真珠のできるまでの過程や現在をとりまく環境などについて学び、変形真珠の個性をいかしたアートに触れる。淡水真珠を使ったアクセサリー作りを体験する。
伊勢茶 ～三重県のお茶を通して知る、 自然と技術の継承～	(有)深緑茶房は松阪市飯南町で茶製造業を営み、優秀な農林水産者にのみ与えられる最高の賞、「天皇杯」を受賞したことで知られている。おいしいお茶の淹れ方を体験しながら、高齢化、若者の農業離れ等、農家が直面する課題について、いち早く取り組んだ様々な事例から学ぶ。
触って知る、鈴鹿墨 ～にぎり墨体験～	延暦年間から受け継がれる、経済産業大臣指定伝統的工芸品の鈴鹿墨。いまや国内で唯一となった鈴鹿墨の伝統工芸士が、その技術を次の世代に伝えるとともに、現代文化に沿った新しい墨のパフォーマンスに取り組んでいる。伝統工芸士から文化の継承と現在の活動を紹介いただきながら墨の製作工程の一つであるにぎり墨体験をする。

*申込みは以下をご覧ください。⇒<http://www.iyeo.or.jp/ja/> IYEO会員へは6月上旬に案内が郵送されます。

第6回「青年の船」40周年記念大会報告

東京都 長島 令子

第6回「青年の船」は、1972年10月16日、秋晴れの中、晴海埠頭をフィリピンに向けて出航しました。現在の「世界青年の船」事業や「東南アジア青年の船」事業の参加者には当たり前と思われることが、初めて第6回「青年の船」で実施されました。それは、OM(Overseas Members)と呼ばれる訪問国の青年たちが同時に乗船したこと、過去の参加者の中から数人の班長が選ばれたこと、そして、船内での飲酒が解禁されたことの3点です。これは当時の政府のプログラムとしては画期的なことでした。

日本ではよく「同じ釜の飯を食べた仲」と言いますが、それに加えて運命共同体の船の生活が2か月も続くのですから、全員が仲良く一つの目的に向かって進むのに時間はかかりません。というわけで、私たち6回生は下船後に23回もの会合を持ちました。1、2、10、20、30、40周年と節目は東京で開催し、その他は文字通り、北は北海道から南は沖縄まで、各地の特色をいかした会を持ちました。参加者も多い時には家族を含め200名近くになった大会もありました。今回の40周年記念大会は、平成24年10月28日に、30周年大会と同様に東京のグランドアーク半蔵門で開催され、参加者は130名ほどでした。

この40年を振り返りますと、全員が事業経験をいかして、それぞれ地元で活躍しているように思えます。大震災時のボランティア、国際交流グループのリーダー、政治家、青年海外協力隊員などです。記念の大会は、私たちの貴重な経験の情報交換の場でもあるのです。団長、管理官を始め30余名が天国に召されましたが、来年の高知大会には、又、大勢の方々と元気に再会できることを願っています。



第19回「青年の船」同窓会報告

和歌山県 木田 博信

第19回「青年の船」1～3班有志で7年ぶりの同窓会を開催しました。平成25年1月12日(土)午前10時半。快晴の横浜に1～3班に加え、管理部からも参加していただき、大勢の仲間が集合。お互い見た目は変貌していても一瞬にして気持ちは青少年に。事後活動で海外との懸け橋の仕事に就いた参加者や自分の子供にも国際交流をさせている参加者の体験談、国際交流ボランティアに励む人の貴重な経験談に耳を傾けた後は、当時の思い出話から老後の心配まで話題は広がり、笑いの絶えないランチとなりました。

午後2時。大棧橋に接岸中の3代目につぼん丸へ移動して商船三井客船のご好意で私たちのために催された船内特別見学会に参加。当時と違い、展望ラウンジからエステや劇場、カフェまで備えて文字通り豪華客船となっているにつぼん丸に全員が歓声を上げました。

参加者は乗船組と送迎組に分かれ、午後5時に銅鑼の音が響く中を出港。27年ぶりの紙テープ投げに一同大感激。南太平洋での涙の別れが脳裏をよぎり、思わずウルウル。

そのまま乗船組は2泊3日につぼん丸クルーズへ。トップデッキで満天の星座を眺めながら南太平洋の島々で暮らすOM(Overseas Members)に思いをはせつつ、これからも「青年の船」で得た貴重な経験をいかそうと改めて感じた3日間となりました。



今月の表紙

スリランカ教育支援プロジェクト「One More Child Goes To School」の奨学生(当時4年生・男子)の作品。自然に満ち溢れた村の朝の風景。

小学校の次世代のための環境教育を通じ、子供たちは自然を身近に感じ、自然保護やその価値について学んでいます。



編集後記

P.10～11で取り上げた「タイ王国・スタディツアー」は、編集者が個人的に毎年楽しみにしているプログラムです。プログラム後に参加者から提出される感想文の内容がすばらしいのです。参加前と参加後では、明らかに物事のとらえ方が変化していることが編集者にも伝わってきます。毎年、感想文を読む度に、自分の境遇や環境を劇的に変えることはできないものの、自分の見方を変えて、より幸福な生活ができるのだなと考えさせられます。(ふ)

MACROCOSM 5月号 vol.102

2013年5月31日発行

編集 マクロコスム編集委員会

発行 一般財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町

2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室

日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 200円 本体191円

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270



PRINCESS CRUISES

プリンセス・クルーズでめぐる日本発着クルーズ

IYEO会員
5%OFF



朝・昼・晩の3食付！

船内では朝・昼・晩の3食付いており、クルーズ代金に含まれております。またビュッフェやピザ等、様々なバリエーションがございます。

日本語スタッフが 50名以上乗船！

船内新聞やレストランのメニュー、船内アナウンスも日本語対応。ご安心してご乗船下さい。

日本発着限定！

日本発着ならではのサービスを致します。詳しくはパンフレットを参照して下さい。

有料宅配サービス！

ご自宅から客室まで、宅配便にてスーツケースなどの荷物をお届けします。港まで荷物を抱えて持ってくる心配はございません。



サン・プリンセス

就航：1995年（2010年改装）
総トン数：77,000トン
全長261m／全幅32m
乗客定員：2,022名／乗組員900名
船籍：バミューダ

記載の2つのクルーズにつきまして、IYEO会員の皆様と同行の皆様へ一律5%割引いたします。

北海道周遊とサハリン9泊10日

2013年7月14日(日)～7月23日(火)
横浜～釧路～知床半島(クルージング)～コルサコフ～
小樽～函館～青森～横浜
旅行代金(お一人様・消費税込み)

144,000円～644,000円

横浜
発着

初夏の北海道を周遊し、大自然を満喫できるクルーズです。目玉は世界遺産・知床半島クルージング。釧路からは釧路湿原を訪ねることもできます。サハリンの南玄関口・コルサコフを訪ねた後、運河の街・小樽、夜景の名所・函館、東北の名港青森を訪ねます。

日本周遊と釜山 12泊13日

2013年7月2日(火)～7月14日(日)
神戸～広島～瀬戸内海(クルージング)～広島～
釜山～境港～鶴舞～金沢～青森～室蘭～横浜
旅行代金(お一人様・消費税込み)

169,000円～689,000円

神戸発
横浜着

神戸で2泊停泊の後、美しい瀬戸内海クルージングからスタートして日本を周遊するクルーズです。広島では1泊停泊して周辺都市もゆっくり観光。宍道湖がある境港、天橋立のある鶴舞、歴史薫る街・金沢、ねぶたの郷・青森、地球岬のある室蘭と個性豊かな街をめぐります。



トップツアー株式会社

●お申込み先:

ストリームライン新宿支店

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25
西新宿木村屋ビルディング16F
担当：米田 匡・鈴木 真実
E-mail: tadashi_yoneda@toptour.co.jp

営業時間 平日:09:30～18:30 土・日曜祝日休業

TEL 03-5348-3500

FAX 03-5348-3799

運航会社:プリンセス・クルーズ
ジャパンオフィス:カーニバル・ジャパン



撮影：中村風詩人

初夏の日本をめぐる旅を、にっぽん丸で

海の青があざやかになるこの季節、
 にっぽん丸で旅に出てみませんか。
 人気の花火大会を船上からゆったり鑑賞するコースや、
 キッズプログラム満載のご家族向けクルーズ、
 可憐なレブンアツモリソウが群生する礼文島を訪ねる旅をご用意しました。
 海から訪ねる日本の美しさを、にっぽん丸でお楽しみください。

※花の見頃は例年と異なる場合があります。



大島大橋(イメージ)



レブンアツモリソウ(イメージ)



花火(イメージ)

NIPPON MARU

2013年6月19日(水)～6月21日(金)
神戸発着 瀬戸内海・周防大島クルーズ

神戸～周防大島(※)～神戸
 80,000円～392,000円

2013年7月30日(火)～7月31日(水)
夏休み にっぽん丸ファミリークルーズ

横浜～初島～横浜
 48,000円～200,000円

2013年6月22日(土)～6月27日(木)
初夏の北海道クルーズ ～礼文・室蘭～

横浜～礼文島～室蘭～横浜
 215,000円～1,000,000円

2013年8月8日(木)～8月9日(金)
夏休み 館山花火クルーズ

横浜～館山～横浜
 49,000円～200,000円

(※)は初寄港地



○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。 ○掲載の代金は大人お一人様、消費税込みの代金です。 ○掲載の写真はすべてイメージです。

商船三井客船 ☎0120-791-211 <http://www.nipponmaru.jp>

クルーズデスクフリーダイヤル 9:30～17:00(土・日・祝はお休みです) 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5階

マクロコズム平成25年度第1号(第102号)の 発刊に当たって



一般財団法人 青少年国際交流推進センター
理事長 上村 知昭

マクロコズム第102号(平成25年第1号)の刊行に当たり、初めに当センターが、平成25年4月1日をもちまして、一般財団法人青少年国際交流推進センターとして新たな一步を踏み出しましたことを御報告いたしますとともに、新法人化に際し、種々御指導、御支援をいただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

また、先般終了しました平成24年度に当センターが実施した事業ですが、内閣府青年国際交流事業(当センターが内閣府との契約により実施を担当)は、各都道府県そして日本青年国際交流機構(IYEO)の皆さんが実行委員会の中心となつての御協力により、所期の成果を得て無事終了することができました。また当センターの自主事業であるタイ王国へのボランティア派遣(タイ国内の社会的に恵まれない児童等のケア)、国際交流リーダー養成セミナー(全国各地での国際交流事業等の青年リーダー養成プラン)、国際理解教育支援プログラム、機関誌マクロコズムの発行などによる情報提供・啓発等々関係者の方々の御協力により前年に優るとも劣らぬ成果を得て無事終了することができました。深く感謝申し上げます。

平成25年度におきましては、これまでのように内閣府青年国際交流事業への協力・実施、自主事業のさらなる充実を図りますとともに、新たに次のような大切な事業を行うこととなりました。

安倍総理が1月にアセアン3か国(ベトナム、タイ、インドネシア)を歴訪された際、インドネシア訪問中に、第1次安倍内閣の時に実施されたJENESYSの後継として、3万人規模で、アジア大洋州諸国及び地域との間で青少年交流事業「JENESYS 2.0」を実施することを発表されました。本事業は、日本経済の再生に向けて、我が国に対する潜在的な関心を増進させ、訪日外国人の増加を図るとともに、クールジャパンを含めた我が国の強みや魅力等の日本ブランド、日本的な「価値」への国際理解を増進させることを目指すものとされています。この事業の本年度実施予定のものの中で「日ASEAN学生会議」(アセアン10か国+東ティモールの青少年930人余を日本に招へいし、交流)に応募し、その実施を担当させていただくこととなりました。JENESYS 2.0の目指す我が国にとり、たいへん重要な事業目的に貢献できますよう役職員一丸となって頑張つて参りたいと思っております。

以上申し上げましたように、平成25年度は、これまでより相当繁忙となると存じますが、IYEO会員の皆さんを始め関係各位の方々に、これまでも増して御支援・御協力をいただきますよう心よりお願い申し上げます。25年度第1号発刊に当たつての御挨拶とさせていただきます。

平成25年度事業計画書

1 青少年国際交流事業の企画、実施及び協力

- (1) 青少年国際交流スタディツアー
地域での国際交流活動に関心と意欲のある青少年を内閣府の青年国際交流事業既参加青年の組織のある国に派遣し、ボランティア活動への取組や訪問国青年の案内による視察、調査等を行う。
年1回 9日間、参加人数 20人程度
- (2) 国際交流リーダー養成セミナー
国際理解の促進を図るため、国際交流に携わる指導者の養成を行う。
年1回 東京で開催、参加人数 20人程度
- (3) 国際理解教育支援プログラムの実施
内閣府の実施する青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を、国際理解教育に資するため、日本の学校に派遣する。年6回 派遣人数 各3人程度

2 内閣府と共催する青年国際交流事業

- (1) 国際青年交流会議
内閣府主催の「国際青年育成交流」事業の中で、基調講演・テーマに基づいた視察やディスカッションプログラム等を共催で行う。
年1回 東京で開催、参加人数 160人程度
- (2) 日本・ASEANユースリーダーズサミット
内閣府主催の「東南アジア青年の船」事業の中で、日本とASEAN諸国を結ぶネットワークづくりに参加する機会を提供することを目的として共催で行う。
年1回 東京で開催、参加人数 500人程度

3 内閣府等の実施する青年国際交流事業への協力

- (1) 内閣府等の実施する青年国際交流事業への協力
- (2) その他の国際交流事業への協力

4 青少年国際交流に関する啓発及び研修

- (1) 青少年国際交流全国フォーラム
全国各地域で国際交流に携わる指導者及び青年を対象に、有識者の講演、青少年国際交流活動に関する事例発表・討論等を行う。
年1回 三重県で開催、参加人数 300人程度
- (2) 団体会員のブロック大会(青少年国際交流を考える集い)
全国8ブロックで開催。平成25年度は次の各都府県で開催する。
北海道・東北ブロック・福島県 関東ブロック・東京都
北信越ブロック・長野県 東海ブロック・三重県*
近畿ブロック・京都府 中国ブロック・山口県
四国ブロック・愛媛県 九州ブロック・佐賀県
*青少年国際交流全国フォーラムと同時開催
- (3) 青年国際交流事業報告会
国際交流に関心のある青年を対象に、青年国際交流事業参加者による報告会を行い、国際交流事業への参加を促す。
年3回 東京で開催、参加人数 各250人程度
- (4) 推進委員会議
当センターの幹事推進委員及び都道府県団体会員の都道府県推進委員の出席のもと、会議を行う。
年2回

5 青少年国際交流に関する出版物の刊行及び広報活動等

- (1) 機関誌の刊行
全国の地域や職域及び海外において行われている青少年国際交流活動の紹介などを中心とした情報誌「MACROCOSM(マクロコズム)」を発行し、都道府県を中心とする関係機関及び一般に配布する。
季刊 15,000部 1回 2,500部 3回
- (2) 年報の刊行
全国の地域や職域及び海外において行われている青少年国際交流活動の実施状況など、青少年国際交流に関する情報や資料を収集、整理した年報「青年国際交流事業と事業参加者の事後活動」を作成し、国際交流実施団体等に配布するとともに、政府刊行物センター等において販売する。
年1回発行 1,300部
- (3) ホームページによる国際交流活動に関する情報提供
① 情報誌「MACROCOSM(マクロコズム)」のホームページ上での公開
② 当センターの概要及び事業案内、各種募集案内等の公開
- (4) その他
青少年国際交流事業に関連する各種資料を作成し、都道府県を中心とする関係機関に配布する。



6 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究

- (1) 青少年国際交流事業に関する情報収集
① 青少年国際交流情報ネットワークの整備
内外の青少年国際交流関係者に関する情報を収集し、ネットワークを整備する。
② 海外における国際交流活動に関する情報収集
関係各国に職員等を派遣し、国際交流に関する情報を収集する。
- (2) 青少年国際交流に関する調査研究

7 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等

- (1) 国際交流活動の推進
全国各地域で行われる青少年の国際交流活動を推進する。
- (2) 活動奨励金の交付
国際交流活動の一層の活性化を図るため、都道府県団体会員に対し、活動奨励金を交付する。
- (3) 青少年国際交流コンサルティング
青少年国際交流事業の実施を希望する団体を対象に、青少年国際交流事業の企画、実施に関する相談に応ずる。
- (4) 国際ボランティア等に関する情報提供
依頼に応じて国際協力、国際貢献に関心のある青少年に対し、国際協力、国際貢献を行う活動団体、活動内容等を紹介する。

新たなキーワードは「リーダーシップ」

日本青年国際交流機構会長 大河原 友子



平成24年度は行政事業レビューという突然の嵐を体験し、一時は事業継続の危機に直面しましたが、長年培ってきた事後活動の成果や事業に対する熱い思い等が政府に伝わり、今後も国際交流事業は継続されることが決定されました。このすばらしい事業をこれからも長年継続し、次世代に繋げていくためには、既参加青年である私たちが、事業の価値や必要性を日本全国そして世界に向けてアピールしていく必要があると再確認しました。

内閣府の青年国際交流事業は半世紀以上に「国際交流や青少年育成」を目的に始まりました。プログラムの内容は時代のニーズと共により良く改善され、「青年リーダー育成」を目的の中心として行われていきます。様々なプログラムやディスカッションの中で、参加青年たちは自らの交流に加えて新たな成果を見出すことを目指し、事業の経験をいかして国際貢献やリーダー育成など一歩進んだ活動に繋がれるように意識付けされます。そのような体験をしてきた青年たちと共に、全国組織の事後活動で更に成長する場を作り上げていくのが日本青年国際交流機構 (IYEO) の活動です。

このような背景の中で平成25年度のIYEO活動方針を改訂しました。「社会でリーダーシップを発揮できる人材育成を目指して」これは「リーダーシップ」というキーワードを意識し、積極的に発揮することを示していきたいからです。活動方針の3本

の柱に関しては、青年層をターゲットにしているIYEOの活動に沿っているので、今年も継続的に推奨していきます。(下記の平成25年度 日本青年国際交流機構 (IYEO) の活動計画を参照ください)

昨年より始まった「自主活動サポート助成金制度(チャレンジファンド)」は、皆さんが仲間と共に考える画期的なアイデアを実現するために助成金が受け取れる制度です。ぜひ、このシステムを利用し、多くの新企画が生まれることを願っております。「ボランティアのすすめ」も少しずつ形を整え、会員の皆さんが活躍できる場を提供するよう進めていきたいと考えています。

今後ネットワークを強化し、更に活発な活動に繋がるようにする第一歩として、「IYEO会員データプロジェクト」を立ち上げます。メールアドレスを発掘し、多くの会員と連絡が取れる状態にすることから始める予定です。皆さんも引越しや連絡先変更の際は必ず事務局にお知らせくださいますようお願いいたします。

今年も全国IYEO会員の皆さん、内閣府、一般財団法人青少年国際交流推進センターとの連携体制の下で更に実りのある年にしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

I. 活動方針

「社会でリーダーシップを発揮できる人材育成を目指して」

変化の激しい現代社会においては、これらの変化に対応し幅広い視野を持って新しい取組を考え、実行できる人材が必要とされている。このような現状を踏まえて、50年を超える内閣府青年国際交流事業で培われた青年育成のノウハウと日本青年国際交流機構で築き上げたネットワークをいかした人材育成に取り組む。

1. 青年層活性化の基盤づくりに取り組もう

青年の社会活動へのニーズを把握して、青年の活動の場作りと環境整備に取り組むべく、国に対して青年施策についての提言を積極的に行う。同時に、自団体の活動内容を見直すとともに他団体との連携に取り組み、青年層の活性化を図って、青年による社会の活性化を目指す。

2. 地域社会に貢献できる人材育成に取り組もう

地域における国際交流活動を積極的に行い、地域と世界の距離を狭めるとともに、地域のニーズに合った貢献が果たせる人材の育成に努める。

3. 国際ネットワークをいかした国際協力活動に取り組もう

国内外における様々な課題に対応するため、半世紀にわたって築いたネットワークを活用して国際協力活動を推進し、社会に貢献していく。

II. 主な活動分野

第1分野： 地域における国際交流活動を基本にした人材育成

- (1) 短期の海外派遣事業
- (2) 国際理解を深める勉強会やワークショップなどの研修プログラムの開催
- (3) 小中学校の国際理解教育への協力
- (4) 在住外国人への支援活動
- (5) 地域の人々と在住外国人との交流プログラム
- (6) 内閣府青年国際交流事業報告会の開催

第2分野： 国際交流事業受入れへの協力及び自主事業による外国青年受入れ／派遣

- (1) 青年国際交流事業へのプログラム内容の提言
- (2) 行政・団体等との連携による地元青年を含めての受入実行委員会の組立て
- (3) ホームステイのアレンジ
- (4) 地域産業並びに多様な分野との連携による外国青年の日本理解促進
- (5) 団体及び大学との連携によるディスカッションプログラムの組立て

第3分野： 国際協力活動

国内外で起きる災害や諸問題に対して、各国の事後活動組織と連携して問題解決に向けて取り組む

第4分野： 青少年分野についての活動の啓発

- (1) 全国の会員からの意見をまとめて、国の子ども・若者施策に対して提言書を提出
- (2) 国及び地方自治体の青少年に関する法律及び条例の普及・啓発への協力
- (3) 若者の人材育成並びに意識啓発を目的とした独自の自主事業への取組
- (4) 社会活動の推進
- (5) 青少年分野にかかわる公的な場への人材推薦及び積極的発言
- (6) 他団体との連携

第5分野： 広報活動への積極的取組

- (1) 内閣府青年国際交流事業募集広報への協力
 - ① 年間を通しての広報活動の工夫
 - ② 事業報告会及び事業説明会の開催
 - ③ 大学での事業説明会への協力
 - ④ 企業への働きかけ
- (2) 団体をアピールするための広報
 - ① 内閣府青年国際交流事業との連携を分かりやすく示す
 - ② 独自の自主事業をまとめて対外的にアピールできるよう組み立てる
 - ③ インターネット広報の充実

第6分野：都道府県IYEO及び会員のネットワーク強化と啓発活動

- (1) 全国大会、ブロック大会（青少年国際交流を考える集い）などの開催
- (2) 都道府県IYEO役員研修の開催
- (3) ブロック内IYEO間の連携強化の取組
- (4) 各事業の既参加者の縦のつながりを促進する取組による国内ネットワーク強化
- (5) プリテンボード発行などによる会員間の情報共有
- (6) 会員情報の把握強化

第7分野：内閣府青年国際交流事業の外国参加青年とのネットワーク

- (1) 「東南アジア青年の船」事業のASEAN各国事後活動組織との国際連携組織(SSEAYPインターナショナル)
 - ① SSEAYPインターナショナル総会の開催
 - ② 共通連携活動の取組
 - ③ SSEAYPインターナショナル事務局担当国としての対応
- (2) 「世界青年の船」事業参加46か国の事後活動組織との国際連携組織(SWYAA)
 - ① SWYAA国際大会の開催
 - ② 共通連携活動の取組
 - ③ SWYAA事務局としての対応
- (3) 中華全国青年連合会を基本にした「日本・中国青年親善交流」事業の中国既参加青年との連携
 - ① 中国との交流プログラムの推進
- (4) 「日本・韓国青年親善交流」事業の韓国既参加青年との連携
 - ① 「日韓交流連絡会議」の開催
- (5) 「国際青年育成交流」事業の交流国であるヨルダンとドミニカ共和国とのネットワーク形成
- (6) 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」のネットワーク形成

第8分野：財政基盤の確立

将来を展望した運営と財政基盤確立の取組

III. 本部における活動計画

1. 全国大会の開催

第29回全国大会三重大会 日程：平成25年8月17日(土)～18日(日)
開催地：三重県

2. 全国推進会議の開催

第58回全国推進会議 日程：平成25年8月16日(金)～17日(土)
開催地：三重県
第59回全国推進会議 日程：平成26年2月15日(土)～16日(日)
開催地：東京都

3. ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)

平成25年度中に8ブロックにおいてブロック大会を開催する。今年度東海ブロックについては、全国大会と同時開催とする。
ブロックごとに活動方針に沿ったスローガンを設定し、ブロック大会開催の際に掲げて、会員の活動についての共通認識の形成と意識高揚に資する。

4. 東日本大震災の被害からの復興活動への取組

平成23年3月11日(金)に発生した「東日本大震災」による被害への復興支援を継続的に行うべく、岩手県、宮城県、福島県を中心とした被災地のニーズを把握し、都道府県IYEOとの連携を強化して進めていく。

- (1) 東日本大震災復興支援のための募金活動
- (2) 継続支援を行う地域のニーズを明確に把握して、効果的な支援に取り組む
- (3) 国際交流の視点を取り入れた活動を、被災地において積極的に展開する
- (4) ホームページ等で世界や全国からのメッセージや活動内容を発信

5. 国際並びに国内支援活動

- (1) インドシナ津波被災国であるスリランカへの支援(スリランカ教育支援プロジェクト)を始めとする「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)における国際支援活動の継続
- (2) インドシナ津波被災国であるタイ、インドネシアへの支援、並びにタイの「For Hopeful Children Project」への支援活動を始めとする「東南アジア青年の船」事業事後活動連携組織(SSEAYPインターナショナル)における国際支援活動の継続
- (3) 事後活動組織の国々においての災害に対して、各国事後活動組織との連携による支援
- (4) 各都道府県においての災害に対して、都道府県IYEOとの連携による支援

6. IYEO設立20周年記念からスタートした事業の継続

設立20周年記念を機に取り組んだ事業のうち、成果をあげたものから継続して取り組んでいく事業を選定して積極的に取り組む。(グローバル・フォト・コンテストの作品展示の推進、IYEO Café、広報活動の推進)

7. 青少年分野についての意識の啓発及び具体的な活動の推進

- (1) 子ども・若者施策への提言
- (2) 青年のリーダーシップの向上や社会への参画意識を高めることができる内容及び異文化理解を促進する内容の自主事

業の企画・運営

- (3) 子ども・若者育成支援推進法の普及・啓発への協力
- (4) 各種青少年国際交流事業へのリーダー推薦及び公的委員会等への人材推薦
- (5) 他分野、他団体との連携活動の推進(共催、後援、協力)
- (6) 社会活動(ボランティア活動)の啓発・促進
 - ① 「自主活動サポート助成金制度(チャレンジ・ファンド)」
 - ② 「ボランティアのすすめ」

8. 平成25年度、26年度内閣府青年国際交流事業募集広報への協力並びに団体としての広報活動強化

IYEOの社会活動団体としての活動実績を明確にアピールし、非営利団体としての社会的役割を広く知らしめるための広報活動に力を入れるとともに、内閣府青年国際交流事業の充実を図るために、参加者募集広報活動の協力に重点をおいて取り組む。

- (1) 事業広報
 - ① 年間を通しての広報活動の工夫
 - ② 事業報告会及び事業説明会の開催
 - ③ 大学での事業説明会への協力
 - ④ 募集パンフレットの配布先の開拓
 - ⑤ マスコミへの紹介
 - ⑥ 企業への事業説明
 - ⑦ その他、効果的な広報活動を検討し推進
- (2) 団体広報
 - ① VOICE100の活用
 - ② 「はじめてのIYEO」の活用
 - ③ ツイッターの活用
 - ④ その他、効果的なツールの活用への取組

9. 都道府県IYEO役員研修の開催

都道府県IYEOで事務局を担当する役員メンバーから代表者を集めて、実務研修を行う。

都道府県IYEOの活動基盤の充実を図ることにより、全国組織としての組織基盤の確立を目指して人材育成の一環として行うものである。

日程：平成25年6月15日(土)～16日(日)(一泊二日)

開催地：東京都

10. 海外とのネットワーク

- (1) SSEAYPインターナショナル第25回総会の開催
(日程：平成25年4月24日(水)～4月27日(土))
開催国：ラオス
- (2) 「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)国際大会の開催
(日程：平成25年8月29日(木)～9月2日(月))
開催国：ペルー
- (3) 中華全国青年連合会を基本にした「日本・中国青年親善交流」事業の中国既参加青年との連携
- (4) 「日本・韓国青年親善交流」事業の韓国既参加青年との連携(「日韓交流連絡会議」の開催 日程：平成25年8月2日(金)～4日(日) 開催国：韓国)
- (5) 「国際青年育成交流」事業のネットワーク形成に向けて国内におけるAir-Net Dayの開催などを軸におきながら継続的派遣国を中心に発展
- (6) 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」のネットワーク形成に向けて

11. 国内ネットワークの強化

- (1) 各事業直後の全体での事業報告会の開催(年3回)
内閣府及び(一財)青少年国際交流推進センターと共催
 - ① 第25回「世界青年の船」事業報告会
平成25年6月16日(日)
 - ② 平成25年度航空機による青年海外派遣報告会
平成26年2月2日(日)
 - ③ 第40回「東南アジア青年の船」事業報告会
平成26年2月23日(日)
- (2) 事業ごとの国内ネットワークの自主的強化
 - ① 第7回Air-Net Dayの開催(平成25年度 調整中)
 - ② 「日本・中国青年親善交流」事業関係者による中国同窓会の開催
 - ③ 各事業関係各国大使館への訪問
 - ④ 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」既参加者の情報交換会の開催
- (3) 会員情報の把握強化
「IYEO会員データプロジェクト(仮)」

12. 事後活動「Bulletin Board」の発行

年5回(全体発送と全国大会案内、事後活動ニュースの発送時に同封)

都道府県IYEOの連絡文書発行に協力
A4両面スペースに都道府県ごと(またはブロックごと)に印刷して全体送付の際に同封

13. 財政基盤の確立

会員に対しての呼びかけを含め、継続的な寄付金収入の確保に努める。

第39回「東南アジア青年の船」事業 日本・ASEANユースリーダーズサミット Japan-ASEAN Youth Leaders Summit 2012

基調講演：グローバル社会のためのリーダーシップ Keynote Speech: Leadership for the Global Society

日 付：平成24年10月30日（火）

講演者：明石 康 氏（国際文化会館理事長、元国際連合事務次長）

（英語による講演の日本語要約）

今回、アセアン10か国と日本の若い皆さんにお話しできる機会を得られ、光栄に思います。第39回「東南アジア青年の船」事業で、アセアンと日本から500名の方がここに集っています。大部分の方は10月24日から12月13日までの約7週間の事業に参加し、7か国を訪問します。ディスカッション活動を行い、船上で生活を共にし、異なる国の若い人と出会い、とてもうらやましく思います。みなさんにとって極めて価値のある機会になるでしょう。お互いに出会って知り合うという経験から、自然と温かい友情を育み、相互の信頼へとつながることでしょう。今回の経験が国際理解のための貴重な資産として今後の人生の糧



となることを願っています。私は約40年、国連を中心に海外で仕事をしました。20代後半に様々な国の外交官と出会いました。彼らは自国に残ったり、政府やその他の機関で働いたりしていましたが、定期的に会うことで友情を新たにし、パーティーを開いたり、国際情勢について白熱したディスカッションをしたりした思い出があります。例えば、国連総会第5回委員会では出会ったエジプトの外交官とはお互いの自宅を行き来していましたが、彼は昨年ムバラク政権が変わるまでエジプトの外務大臣を務めていました。このように、皆さんが若い時の友情は、その後何年も続き、人生に価値をもたらすものです。

グローバル社会に生きて

私たちは、激変するグローバル社会に生きています。インターネット、携帯電話、テレビ、その他様々な方法で得られる情報量は膨大です。情報は瞬く間に伝わり、地球の反対側で起きていることがすぐに私たちに伝わります。今、アメリカの東海岸に近づいている大きな台風について、皆さんもご存知でしょう。ワシントン、ボルティモア、パデュー、ニューヨーク、ボストン等の東海岸のアメリカ人たちは、この大きな台風の猛威に対し、準備しているに違いありません。大統領候補たちも選挙キャンペーンを中止

し、東海岸にいる人々に注意を促しています。このように、情報は数日で即座に伝達されます。私たちは飛行機の時代に生きているわけですから、皆さんも数時間で日本の外から日本に来ることができます。東京から韓国首都ソウルへは、たった1時間15分しかかかりません。ソウルと中国の首都北京は、たった1時間半です。日本の国内線よりも短い時間のこともあります。国際関係は変化し、国同士の関係はより厳しくなっています。同じことが経済関係にも言えます。金融関係はとても密接で、為替相場の変動を常にチェックしておかなければなりません。日本国内では、円高のために日本が他の国と貿易をする際に不利だと不満を抱いている人が多くいます。しかし、円高は、他国からの日本の経済力と金融制度への強い信頼を反映しています。皆さんのような若い方は、文化、芸術、音楽、アニメ、スポーツのほうに興味を持っているかもしれません。これらは全て文化交流の側面です。政治的な関係や外交活動においても、多くの国同士が密接にかかわっています。例えて言うと、私たちは皆、同じ船に乗っているのです。特に、皆さんは比喩的にではなく、文字通り同じ船に乗りますが、世界の人々は「地球」という大きな船に乗っているわけです。ですから、交流やコミュニケーションはとても敏速に行われ、多くの場合個人的な関係や友情を育んでいます。

グローバル人材に必要な三つの能力

日本では、若い人々をグローバル人材に育成しようという関心が高まっています。日本は、アジアの北に位置する島国ですので、東南アジアの国々のように、日本語以外の言葉を使って日本人以外の人々と話す機会がそれほどなく、英語を含めた外国語が下手だと思います。ここ数年、日本政府、経済界や非政府組織は、どのように日本人を海外へ進出させ、いかに他の国の人々と一緒に働けるだけの能力を伸ばすのか議論してきました。政府の全面的な協力のもとに立ち上げられた委員会は、私もそれに参加しているのですが、グローバル人材には三つの能力が必要だという結論に達しました。一つ目は、外国語でコミュニケーションをする能力、二つ目は受け身ではなく、自分が主体的に行動する姿勢です。言い換えれば、チャレンジする精神力、他人・権威・学校の先生や教授の意見などに挑戦しようとする姿勢です。三つ目は、理解する能力で、自分の文化だけではなく他の文化を理解する能力です。そのためには、自国以外の文化に対し、深い畏敬の念と知的な好奇心を持たなければなりません。コミュニケーション能力、課題を受け止めようとする肯定的な姿勢、他の文化に対する尊敬や評価、称賛。これらは、グローバル人材の本質的な要素です。このような要素を考える時、基本的な態度として大事なことは、「お互いの文化、考え方、行動様式を尊重する」ことです。外国語でコミュニケーションを図る能力は、コミュニケーションと相互理解のための方法であり、手段です。

日本人の多くは家父長的な環境でしつけられていますので、少し内気な傾向があります。もちろん、今日の日本の若い世代は、私が若かった時の世代の若者よりは内気ではないと思いますが、他の国と比較すると、中国や韓国と比べても、全体的に日本人は内気で、自分の意見をあまり言わないほうでしょう。しかし、この傾向は変化しています。皆さんの船での経験が、日本人のこのような自己表現の傾向を変える有効な手段になることを期待しています。同時に、皆さんの国としてのアイデンティティーを失わないことも大切だと強調しておきます。私たちはグローバル化した世界で生きていますが、自分の文化、伝統、習慣、先祖から受け継いできたものを忘れてよいということではありません。ほかの国からもたらされる良いものを受け入れることと、自国の先祖、両親、先生から引継がれた良いものとのバランスを維持する必要があります。



ステレオタイプを乗り越える

様々な人々と迅速なコミュニケーションができるこの時代において、皆さんが他の国に対してステレオタイプを持っているとは思いません。もっと現実に即した特定のイメージを抱いているはずですし、それは良いことです。しかし、他の人を個人としてではなく、集合体として見なす傾向があるかもしれません。確かに、ステレオタイプは避けられないものです。例えば、皆さんの多くは、アメリカ人に対するステレオタイプを持っているかもしれません。アメリカ人は、積極的に発言し、率直で友好的な性格で、時には自分の考えを他の人に押し付けようとするなどです。このステレオタイプを壊そうとしてみてください。アメリカ人の中にも、内気で、どちらかというと消極的な人もいますし、日本人の中にも積極的に発言する人がいるからです。ですから、すべてのアメリカ人がこのステレオタイプに当てはまるわけではないのです。

相互支援コミュニティの形成に向けて

他国に対するステレオタイプにとらわれるのではなく、個人を見るのが重要です。個人と個人が一緒になることでコミュニティを形成します。それらが地域コミュニティになり、国としてのコミュニティになります。アセアン10か国は、アセアン・コミュニティを構築しようとしているかもしれません。そして、私たちはグローバル・コミュニティを形成しようとしていると思います。ただ、そこまでたどり着いていません。まだ、国としてのコミュニティを形成している段階であり、それから近隣国のコミュニティ、そしてグローバル・コミュニティへとつながっていきますので、時間がかかることでしょう。

皆さんもご存知の通り、ヨーロッパは私たちの先を行っ

ています。ヨーロッパは、27か国でヨーロッパ連合を形成し、そのうち17か国はユーロという共通の通貨を導入しました。現在、ギリシャ、イタリア、スペイン、ポルトガルのような数か国による多額の借金により、大きな問題を抱えているものの、ヨーロッパはこの経済危機を克服することでしょう。このような連合を形成するまでにヨーロッパは60年を費やしました。アジアは異なる歴史、文化、言語、宗教を持っているために、ヨーロッパのこのレベルに達するまでにさらに多くの時間を必要とすると思います。ヨーロッパを模したアフリカ連合をすでに形成しているア

フリカは、制度を作るという意味では少なくともアジアの先を行っています。しかし、特に東アジアでは、地域コミュニティや地域の結束を促進するための大きな数歩を踏み出しています。

日本は、2011年3月11日の未曾有の津波を引き起こした大地震によって大変な被害をうけました。日本人は、地震の際に世界中から、特にアジアの国から寄せられた同情、温かい支援に対し、感動しました。私はスリランカの平和構築にかかわりましたので、多くのスリランカ人を知っています。東日本大震災の際には、スリランカのマヒンダ・ラジャパクサ大統領からお電話があり、深い同情と共に100万米ドルもの援助、お茶、その他のスリランカの製品の寄贈、そして被災地へのレスキュー隊派遣のお申し出をいただきました。これは、アジアや世界中で形成された人々の団結が表されたものだと思います。日本は、インドネシア、ミャンマー、タイの国々に甚大な被害をもたらしたインド洋津波の際、経済的な援助も含め様々な支援を率先して行いました。私たちは相互支援コミュニティを形成しているのです。将来の大災害に対してどのように備えるかということ話し合う国連防災世界会議が2015年日本で開催される予定ですが、日本は他のアジアの国々から示された団結を忘れることはないでしょう。この会議は1994年に横浜で、2005年に神戸で開催されました。日本は、自然災害などの非常時にお互いを助け合うことの必要性を訴え続けています。

平和的な紛争解決のために

グローバル化された社会においては、対立、紛争、戦争が起きるのは避けられないことです。ご存知のように、地上や海上では国境をめぐって国際的な対立や紛争が起きています。フィリピン、ベトナム、マレーシア、ブルネイ、



南シナ海、東シナ海には領土問題があります。日本も、中国や韓国、ロシアの北部で問題を抱えています。アセアンの国々も、東シナ海や南シナ海において、漁業船やその他の船舶を使用する際の行動規範を作成しようと懸命に取り組んでいます。ルールを作ることはとても大切です。完全に理解するには時間がかかりますが、取り組み、進歩して行くことはとても大切です。あきらめてはならないのです。それぞれの国には愛国心があります。自分の国については人々も愛国的になり、自分たちの国の伝統を守ろうとすることは自然であり、理解できることです。しかし、愛国心は時に熱狂的で、偏狭で、内向きな自己愛へと陥ってしまいます。私たちは、自分たちだけが善であり、隣国はすべて悪であるというような過激な考え方を避けるため最大限の努力をしなければなりません。

また、私たちは民主主義を受け入れていく必要があります。しかし民主主義も時に、大衆迎合主義、一時的な感情、非論理的な感情に左右されがちです。民主主義はとても大切で、私たちにとって不可欠ですが、一時的な感情の偏りは危険であり、そうしたものから自分を守る必要があります。自分は常に正しくて、隣人は常に間違っていると考えるべきではありません。ある点で妥協し、自分の位置を調整することで、自分と隣人、または近隣諸国との中間地点を見つけることができると思います。

時には、国際司法裁判所のような公平な国際機関により、紛争を終結させる必要があるかもしれませんが、国際司法裁判所は、全ての国がその権限を認めた時に威力を発揮するのです。私の国連での仕事の一つとして、カンボジアとタイの国境紛争にかかわったことがあります。いわゆる1962年に国際司法裁判所が判決を下した「プリアビヒア紛争」です。国際法廷は、プリアビヒアはカンボジア領であるという判決を下したものの、判事の中に異議を唱えた者が

いたため、タイは判決を受け入れませんでした。

平和的な解決というのは容易ではありません。しかし、そのために努力しなければなりません。国連憲章第6章には、互いに交渉すること、第三者の仲介を受け入れること、裁判や司法の場に持ち込むこと等、様々な平和的解決に至るための方法が書かれています。過去を振り返ると、アセアンは慎重に行動してきたことが分かります。アセアンのような地域連合を通しての解決は非常に効果的です。忍耐強く、明確な意思を持って話し合うことが大切であり、互いの共通の利益のために働くべきだと思います。これが国連憲章で述べられた精神であり、2007年に採択されたアセアン憲章の精神だと思います。非常に活動的で精力的なアセアン事務局長であるタイのスリン氏は、私の友人です。事務局長のポジションは来年にはベトナムに移るはずですが、このように持ち回りにするのはとても良いことです。

平等なパートナーとして

日本について考えてみますと、日本はアセアン諸国との関係を非常に重要なものにとらえ、首相もアセアン諸国を訪問してきました。最も重要な訪問は、1977年に福田赳夫首相がフィリピンのマニラを訪れたことでしょう。首相は、日本の三つのアセアン政策について明確に述べました。一つ目は、日本は決して軍事大国にならないこと、隣国やアセアンと共に平和的外交手段で問題を解決する努力をするということです。二つ目は、外交的な関係だけでなく、平等を基礎とした心と心の触れ合う人間的な関係を築くということです。三つ目は、日本とASEANは対等なパートナーであるということです。対等な関係を強調したということが非常に重要だったと思います。

国連にできることとできないこと

皆さんもご存知のように、1990年代は、アメリカの率いるいわゆる自由主義世界と、ソビエト連邦が率いるいわゆる社会主義陣営の間の衝突による冷戦が終わりを迎えた時でした。この頃、多くの方は、もっと幸せで、もっと調和のとれた世界コミュニティーを夢見ていました。しかし、残念ながら、それは実現しませんでした。様々な人種、部族、宗教的衝突が世界中、特にアジア、中東、アフリカで起きています。アジアでは、カンボジアでの紛争が20年も続きました。1992年から1993年の1年半に、極めて重要な国連平和維持活動を率い、民主的な新しいカンボジアの誕生の一助ができたことは、私にとって光栄なことでした。東ティモールでは、国民投票後に紛争があり、国連平和維持活動が再度派遣され、現在では東ティモールは独立

国家となっています。国連は、このような平和維持活動の成功に尽力してきたのです。

しかし、1990年半ばのソマリア、ルワンダ、旧ユーゴスラビアにおいては、国連は平和維持活動において困難に直面し、多くの批判を受けました。私自身も五つの共和国からなる旧ユーゴスラビアの平和維持活動の責任者でした。国連は、この紛争の真っ只中に派遣されました。その名の通り、国連平和維持活動は平和を維持するためのものであり、平和のないところに新しい平和を作ることはできないのです。ですから、国連は困難に直面しました。現シリア問題担当の国連・アラブ連盟合同特別代表ブラヒミ氏は2000年8月に「ブラヒミ報告」を書き、報告の中で、国連が行くべきではない場所について述べています。国連安全保障理事会が国連PKOを派遣すべきでない場所があること、国連にできることとできないことがあるということを経直に認める。PKOが派遣される際には、安全保障理事会と総会は出し惜しみするべきではなく、十分な予算と十分な兵力や装備を配置するべきであるとも述べました。これらは賢明なアドバイスだと思います。国連はブラヒミ報告が出された後、慎重に行動するようになり、過度に野心的になることなく、現実を見据えるようになったと思います。それ以来国連は有用な存在となり、成功を収めています。

外の世界に目を向ける

全ての国には、外向きの傾向と内向きの傾向の両方があると思います。日本は内向きの傾向が強いのですが、私はこのような傾向ができるだけ早く変化してほしいと思っています。特に、日本の若者は、外に目を向け、他のアジア諸国に目を向け、多くのチャンスを与えてくれる世界全体に目を向けるべきなのです。これから数週間に及ぶ船事業での経験によって、心と心が触れ合う対話をし、こうした問題を率直に話し合い、その結果、皆さんがより聡明で、見識に富み、知的な人になられることを願っています。ご清聴ありがとうございました。

